

独 標

西東京市立ひばりが丘中学校

第1学年

第35号

令和6年1月18日発行

プラネタリウムシアター

1月13日の土曜授業の5時間目にピアノの演奏を聴きながらのプラネタリウムシアターが行われました。リアルな星空と壮大な宇宙を見て感動した人が多かったようです。あれから夜空を見上げるようになったのではないのでしょうか。木星や冬の大三角は見つけやすいかもしれませんね。いつもとは違った雰囲気の中で、良い時間を過ごすことができました。



スキー移動教室に向けて

1月15日はスキー移動教室に向けて、男女に分かれてお風呂の入り方をはじめ、心身の発達についてのお話がありました。多くの人が利用するお風呂場では、体を拭いてから上がる、タオルを湯船に入れない、髪を結ぶなどのマナーが必要です。そのようなことが学べるのも宿泊行事ならではの場面でも集団で行動するときは、自分さえよければいいというわけにはいきませんから、考えながら行動できるようにしていきましょう。



～新年の抱負についての作文を紹介します～

<敬称略>

「でも、まあいいや。」

A組

『国連軍のプロジェクトが失敗して、世界は本当に終わるかもしれない』

でも、まあいいや。

『プロのミュージシャンになる夢は、もう二度と叶わないかもしれない』

でも、まあいいや。

『鈴音に告白することもできずに、夏が終わってしまうかもしれない』

でも、まあいいや。

『でも』という接続詞のその先で俺が本当に言いたかったことは何なのだろう。

要領のいい自分を装って、世界を達観するふりをして、誰かに強制されるでもなくでもなく握り潰してきた感情はどこに行ったのだろう。本当は、俺はいったい何をしたかったのだろう。』

この本の主人公を自分と重ね合わせ、この文章が心にずっと残っています。「でも」とか「まあ」とか自分自身に言い訳をしているみたい。そう書いてありました。親にもよく「言い訳をするな。」と言われていた気がします。僕は人にだけでなく、自分にも言い訳をしていたのだとこの本を読んで自覚しました。自分はこうだからしょうがないとか、どうせこうだからもういいとか、自分や他の可能性を狭めていると気付きました。

だから僕は「諦めないこと」、「自分のことを信じること」、「自分を含めて誰かのせいにしないこと」。この三つを今年は意識したいです。目標に向かって突き進むことはとても大切なことだと思います。自分の可能性を信じて、目標に向かって突き進む、そんな1年にしたいです。

これはその話の最後の方の一文です。

『国連軍のプロジェクトが失敗して、世界は本当に終わるかもしれない。でも絶対に諦めてたまるか。もう臆病者でいることにも飽きた。これから先は、絶対に自分の感情から逃げないと決めた。』

「挑め」

A組

私の新年の抱負は「何事も諦めずに挑戦すること」です。なぜなら、何事にも挑戦して良い結果が残せるように頑張りたいからです。そのために三つ頑張りたいことがあります。

ひとつは体育です。私は体育がとても苦手で、その中でも水泳はとても苦手で。けれど諦めないで水でも陸でもしっかりと復習をしたいです。

もうひとつはテストです。2月には学年末テスト、2年生になれば勉強が今よりも難しくなるので、これまで以上に勉強をしなくてはいけないと思います。そのため、テスト対策としてテスト期間だけでなく、平日頃から予習や復習を心がけていきたいです。

最後はあいさつです。先生方にはしっかりとあいさつをすることができるようになりましたが、近所の人とのあいさつは、今でも緊張してできていません。だから2年生までには近所の人にもあいさつができるようになりたいです。

苦手なことでも「何事にも諦めずに挑戦すること」を新年の抱負にして、今年は様々なことに挑戦していきたいです。